

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	2	盛岡の魅力あふれるまちづくり	小施策 主管課等	スポーツ推進課	
施策	13	スポーツの推進	評価 責任者	壽 俊行	内線 3770
小施策	13-5	希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産の継承	評価 シート 作成者	坂本 淳	内線 3774

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産(レガシー)を未来に引継ぎ、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック開催の機会を捉え、事前キャンプ受け入れなどのホストタウン事業に取り組んでいく必要がある。		スポーツによる交流人口の拡大、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取組、広域的な地域スポーツの推進に取り組み、「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」によりもたらされた有形・無形の様々な遺産(レガシー)を確実に未来に引き継ぐ。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか／対象+成功状態)
市民		スポーツへの興味、関心を持ち、「する」「見る」「支える」形で参加する。
県内外のスポーツ競技団体		スポーツツーリズムとして本市に興味を持ち、国際大会、全国大会を開催する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 事前合宿・全国大会受け入れ数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	R1目標値	種 目	→	問 題 点	問題の要因分析
0	3		→		
				<ul style="list-style-type: none"> ラグビーワールドカップ2019日本大会においては、公認チームキャンプ地としてナミビア共和国代表を受け入れ、期間中に実施した交流事業(パブリックビューイングを含む)に4,383名が参加した。 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたホストタウン事業として、ラグビーカナダ・日本女子セブンズの合同合宿を受け入れ、期間中に実施した親善試合には約700名、練習公開やクリニックには約130名が参加した。 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が2021年に延期となったことから、事前キャンプ受け入れ態勢の再調整や、ホストタウンの継続的な機運醸成を図る必要がある。 新たな大規模大会の誘致や全日本レベルの合宿誘致に向けて、滞在費用の一部助成や、施設使用料の減免などのインセンティブ付与が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月にラグビー日本代表の合宿を受け入れたことや、ラグビーワールドカップ2019日本大会で日本代表が活躍したことにより、ラグビーへの機運が高まった。 ラグビーカナダ・日本女子セブンズ親善試合のテレビ中継が実現したことから、それに向けて報道各社に取り上げられ、市民の関心を高める周知ができた。 新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したため。 大会合宿誘致の主なターゲットである首都圏の主催者にとって、移動費や宿泊費等の負担が大きい。

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
	<ul style="list-style-type: none"> ★ 2021年に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、事前キャンプ受け入れ態勢の再調整や、ホストタウンの継続的な機運醸成を図るとともに、大会後を見据えながら、ホストタウン事業のレガシーを継承していく。 ★ 新たな大規模大会の誘致や全日本レベルの合宿誘致活動を優位に進めるため、MICE制度や使用料減免制度の充実化を図るとともに、戦略的な周知を行う必要がある。